

第4回「安心・活力・発展プラン2015」推進委員会 委員意見

日時: 令和3年8月2日(月) 10:00~12:00

場所: レンブラントホテル大分 2階 二豊の間

No.	議事	項目	発言の要旨
1		-	コロナ対策について、県は十分すぎる措置を執っていると思う。あとは企業単位、個人レベルで知恵を出し合い、情報のシェアを行いつつ前へ進むことだと考える。今後は、宇宙港と県内企業、事業者が深く関われる策を考えて行きたい。
2		コロナ対応 観光・雇用	・コロナ関係でたくさんの支援策があることは承知している。2年目に入り、この7月以降事業所だけでは対応が難しくなることが予測されるので、様々な施策をお願いしたい。 ・観光産業では、今後地域の人材が流出する恐れがある。それについての対応も検討していただきたい。
3		社会経済 再活性化 観光	・業界は大変苦しい。アフターコロナでも前のように戻るのか不安。家飲みが増えてもそこまで大きくはない。 ・飲食店の話を聞くと時短協力金で少し助かったと聞いている。 ・県内は何の制限も出ていないが、大企業では大分でも東京と同じ制限がでていて聞く。県内企業でも、同様の対応をしているところがあると聞く。 ・どこかで(酒を飲んでもいいという)旗揚げできるようなイベントをしたい。旗揚げ興行ができる 때가来れば、ご協力をお願いしたい。 ・福岡など県外からお客さんが来ているが、感染も不安。感染を防止しながら、受け入れもしていきたいと思っている。
4	新型コロナウイルス感染症と社会経済再活性化	コロナ対応	・私の子どもの小学校でもコロナ感染者がでた。個人情報大切にすることは重要だと思うが、突然濃厚接触者になったという話が来て、その経路は公開されていない。個人情報を守ることも大事ということはわかっているが、情報が回ってこないことで逆に不安をあおっているのではないかな？ ・また自宅待機が出ているクラスがあるにもかかわらず、学校のHPには再開している情報がでていた。一人感染者が出ると学級閉鎖が出るような感染症なのに、あまり怖くない病気のように捉えられてしまうのではないかな？
5		農業 教育	・国のコロナ関係の助成金は額が大きく、なんとかやっていけているが、市や県の支援ではとてもではないが継続できない。こんな少額でみんな納得しているのか不思議。また国の支援を受けると県・市の支援は受けられない。菊は最初に投資しなければならぬが、全国的に廃業も出ている。大分県ののれん分け事業でハウスを建てたばかりなので、もう少し支援をいただきたい。 ・子どもが中学3年生、ワクチンを打つべきか迷っている。高校3年生は決まったようだが、中学生についても、どうすべきか指針を出していただきたい。
6		社会経済 再活性化 財政状況	・資料2の中に、県内でどの程度、廃業や倒産がでているかわかるものがあると、もっと強い危機感もてるので用意してほしい。 ・貸付金2000億円など、莫大な額になっている。将来的に国から補填されるものも含まれていると思うが、大分県の財政状況はどうか？基金も相当減ってきていると聞いている。県の財務諸表にこういったものがでると危機意識もてる。
7		市民活動 支援	ふるさと納税のNPOの指定枠として市民活動団体を位置づけてほしい。大分にはめじろん基金もあり、NPOの指定枠ということで検討してもらいたい。
8		雇用確保 高齢者	・コロナ禍で介護人材が増えると思込んでいたが、実際にはコロナに感染するリスクが高まるとの懸念から人材不足になる恐れがある。その中、外国人労働者が注目されるようになってきている。外国人労働者を確保していく政策をとってもらえればと思う。 ・高齢者が亡くなっていくが、その子どもは都会に出ている人もおり、大分の財産が都会に移ることになる。遺言をしっかりと書いてもらい地域に財産が残るような取組をすべきではないか。

No.	議事	項目	発言の要旨
9	新型コロナウイルス感染症と社会経済再活性化	健康寿命	・アフターコロナに向けて健康寿命を延ばすことが大分県の地方創生につながる。コロナ感染でも喫煙、肥満、病気による免疫低下の方で重症化が高い。アフターコロナについても受動喫煙対策を徹底していただければと思う。
10		社会経済再活性化	・現在コロナによる制限が厳しすぎるので、地域の実情に合わせて臨機応変に対応して経済の再活性化を図るべきでは無いか？
11	人口増対策	農業	・人口増対策における農業の分野で、最近県内でも成功されている方が多く、きちんと売り先を確保してから作付け面積を逆算するビジネス農業の形に注目している。身体を動かして田舎暮らしをしたいという若い世代が多く存在しているので、農業、漁業、林業それぞれの分野でリーダーを育成することで、県外からの若者達を集めて、ビジネス形態を作っていくという流れを作るのが大事。リーダーを育成することで、移住者の増加が見込めるのではないかな。
12		観光	・観光の面から見ると、観光とは本来、住んでよし・訪れてよしという、住みよい街を作っていく、その姿を見て、訪れてよしになってもらうということがある。子供からお年寄りまで元気がある地域を作っていく、その地域を訪れた方がその地域のことを知ってもらい、将来、いつか住んでよしとなることもあると考えている。 ・今後の観光の視点の中に住民の満足度という視点を入れていくことが重要。住民の満足度においても、例えば、地域内の交通に観光が入ることでよりスムーズにいたり、ふるさと納税に観光が入ることで納税額が増えていく等、色々な視点がある。 ・インバウンドを増やすことでオーバーツーリズムが生まれたが、このようなことにならないような、真の「観光」を目指すことで、将来的に人口対策になると思う。
13		移住 農業 若者就職	・1点目、県内で村八分に関する訴訟があったことについて、私も移住者であるため、大変ショッキングであった。また、私自身も現在この問題に直面しており、村の中に入っていくのが非常に難しいと感じている。 ・例えば、移住者が、農地の取得を頑張ったが、その地域で古くから仕事をしている方から、「この道を通るな」と言われたり、交付金の関係から、「君がこの仕事をやめたら、その地域の人々がお金を負担しないといけなくなるんだぞ」等のことを言われたことがある。 ・農地を受けついで息子・娘が市外・県外で生活しており、放棄に係る費用が大きく、一括では支払えないし、売却したくても売却できないというような話を聞いている。 ・これが、まさに少子高齢化における地方の問題と考えている。県でこの部分に目を向けてもらえるとうれしい。 ・2点目、仕事づくりに関して、関東の大学のキャリアセンター長と話をする機会があり、都会で就職活動を支援し続けることに疑問を感じているという話があった。今までは東京の大企業に就職しろとの流れがあったが、コロナの影響で学生達も不安を感じており、このまま東京に残っていいものかと感じている人もいるとのこと。 ・県には是非とも、この機会を捉え、全国の大学とキャリアの提携を結ぶような取組を進めてもらい、大分県出身者だけに限らず、県外出身者にも大分県が素晴らしいと思ってもらえるような流れを作りたい。
14		若者就職	・人口増対策にかかる若者達の就職に関連し、私は現在、福岡の大分県が設置しているdot.において、福岡県の学生と普段ふれあう機会があるのだが、将来の就職先に迷っている学生が非常に多いと感じている。 ・大企業に入ることは「幸せ」ではなくて、自分ができることを地域に還元したいという学生達がある一定層いる。ただ、そのような学生が、具体的にどのような企業に就職したいというところまでは結びついていないのが現状。 ・企業にとって人材を雇用することは投資であり、初期費用などにリスクが生じる。この点において、大分県版の地域協力隊のような制度をつくり、現在人材が雇用できない分野で、人材が活用される環境をつくっていくが重要ではないかと考える。 ・地元に戻ってきたいという若者の受け皿として、このような制度が機能するとよいのではないかと考える。

No.	議事	項目	発言の要旨
15		出産・子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・人口増を進めるためには、子供を産んでもらうのが大事。 ・どんなに移住を増やしても、子供を産んでくれる人がいないと人口は増えない。 ・子育てのことにに関して言うと、女性(母親)に係る負担が非常に大きいと考える。例えば、子供の学校での素行が悪い等があると、多くの場合、母親に負担を強いられるなど。 ・このような負担が大きいと、若い女性が子供を育てようと次の世代も思ってもらえるかが不安である。女性の不安を払拭するために、行政はもっと方策を考えるべき。 ・所得が一定を超えると、児童手当が削減されるという話があるが、本来であれば、所得がある人には、2人目、3人目と子供を産んでくれる可能性があるのに、このような制限をかけるのはよくないと思う。 ・夫がサラリーマン、奥さんがパートという家庭が、最も苦しいと言う。そのような家庭の奥さんに対し、「なぜ正社員にならないのか」と聞くと、「子供が病気になったときに仕事を休めないため」とのこと。 ・このような子育ての負担が大きい中で、若い女性が本当に子供を産みたいと思っただけのためには、行政ができることをしっかりと取り組んでいくことが必要。例えば、家事代行サービスを提供したり、夜間の小児科の先生をもっと配置いただく等の取組を進めていただきたいと思う。
16	人口増対策	出産	<ul style="list-style-type: none"> ・未婚率が20%以上アップしたということを押見し、未婚者でも子供を産める環境が整ってきたということの現れであると感じた。 ・未婚者であるが子供を産みたいという方が多い。このような方々の中には、子供を授かったが、直前でその男性が逃げたという事例がある。このような場合、少し前までは諦めなければならぬ状況であったが、今は法律的な制度が整っており、男性が逃げた後でも、子供が生まれた後、認知の請求をすることができる。早期に認知の請求をすれば、養育料もきちんと請求することができるので、やはり子供を産みたいという女性もいた。 ・しかし、このような女性たちの中には、職場において、「男性がいない状況で子供を生むのはどうか」というような心のない声をかけられることもあったという話を聞いている。 ・このような未婚で子供を産みたいと頑張っている女性達の後押しをするためにも、「認知の請求」等の制度があるということ、行政で、しっかりと周知いただきたい。
17		出産	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠中絶率というのは数字として出るのか？中絶される方々の状況を改善していくということが、人口増につながるのでは？ ・子供が欲しくても結婚しなかったという人もいるので、「結婚して子供を産む」という考え方自体を、そろそろ変えていってもよいのではないかなと思う。
18		子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の女性は遠慮深く、近所の人たちに声をかけずに、1人で全部抱えてしまい、仕事もキャリアも諦めることが多いと思う。日本で子育てするには女性は犠牲が非常に多い。日本には児童会や老人会があり活動しているが、お互いにポイントを交換して県から何か支援してもらおうとか、「助ける券」の様なチケットみたいなものを発行出来ないか？子育てをする女性の精神的な負担を少しでも減らしてもらえればと思う。そうすれば、子育てももう少し楽しめると思う。
19		出産・子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍になって、出産妊娠を控えている方は、夫などの立ち会い出産もなく、自分一人で出産に立ち向わなければならないということで、大変不安に思われていると思う。例えば、助産師は核家族で出産を不安に思っているお母さんたちの駆け込み寺になっているが、助産師をインターネット検索できるかということ、小規模で開業している人が多いので、なかなか検索できない現状がある。そこで、例えば、子育てしやすいサービスをしている事業者を一覧表にして公表してはどうか。官民が一体となって人口増対策を進めるのなら、行政が民間のそういったサービスの情報収集を行い、県民に見える化してもらえればありがたいと思う。

No.	議事	項目	発言の要旨
20	人口増対策	子育て 市民活動	・子育てしやすい環境の一つに、地域コミュニティの維持も要素として考えられるが、自治会にしてもPTA活動にしても保護者の参加が少なく理解が得られないといった現状がある一方、子供達のためにと積極的に参加しているお母さんたちもいる。それを考えると、保育所の選定基準に、NPO活動とかボランティア活動とかの категорияが入れば、それが点数になり、保育所に預けやすくなる。お母さんが働きやすい、住みやすい、子育てしやすい、といったことを含めたコミュニティの維持も今後重要になっていると思う。
21		出産・子育て	・本社では産休をとった人も、代替で新しく入った人も雇用するようしている。企業にとって一番うれしいことは、社員が結婚し、子供を産んでその子供が成長すること。学校現場では代替教員制度があるが、民間企業の取組にもそのような支援があればありがたい。
22	プラン進捗 状況	芸術 災害対策	・芸術分野は、コロナ禍であるが引き続き力を入れて支援してもらいたい。 ・様々な災害が続いているが、災害対策を明確に示すことによって移住への安心感に繋がると考える。
23		子育て 災害対策	・女性の活躍も含めた子育てしやすい環境づくりはコロナ禍とは関係なく持続的に取り組む必要がある。 ・この数年間で自然災害は増加しているため、対策に力を入れていくことも必要。災害に強い人づくり、地域づくりの推進があるが、数年前より必要性を実感している。より向上させていく必要があると考える。
24		災害対策 人材育成	・県は県民に分かりやすいよう防災CMや防災VRの作成といった対策をしている。今年度、コロナ禍で訓練ができない地域があるが、コロナ禍だからこその方法を県の方で示していただきたい。 ・我々も「ビルド大分」と一緒に建設産業の人材育成、雇用を進めている。地域で建設業の雇用が進まないと、災害対策に支障が出る。災害対策と一緒に考えていく必要がある。
25		外国人労働者 製造業の 省力化	・コロナ禍で外国人労働者を雇用することができない現状にある。日本より遙かにコロナ感染者が少ない国からも入国することができない状況。外国人労働者を受け入れる独自の政策をしていただきたい。 ・コロナ禍の影響で解雇者が多いと聞き、その影響で製造業の人材が増加すると思ったがほとんど増加しなかった。人を増やすという考え方もあるがIOTやロボットを駆使して無人化工場を作り、いかに人を使わずに工場を動かすという逆の発想があってもよいと考える。そういった取組をする企業に対する支援をしていただきたい。
26		移住 産業・観光 教育	・私の会社の中核人材は県外からの移住組。移住者の窓口は一本化してほしい。コミュニティも重要だが、外国人よりも日本人の方が意外とコミュニティに入っていけない。 ・私の会社では別府、鉄輪温泉に住んでもらって気に入ってもらったら大分に就職してもらおうということをやっている。観光と連携できないか。 ・アフターコロナを考えて、自動化も重要。ソフトウェアは教育が必要。ITが進むとどうかわるのか啓蒙していくことが大事と思う。
27	子育て 教育	・コロナ禍のため、こどもの体験活動が減少している。昨年は宿泊を伴う活動は軒並み中止となり、今年は若干回復したが依然として少ない。また、温暖化による熱中症対策や自然災害の影響も体験活動の減少に関係している。自然体験は社会の基礎を育み、大分のふるさとへの愛着を育むよい場である。また、大分の自然の中でのびのびと育てられる環境はUターンやIターンにも繋がると考えるため、今後も支援が必要と考える。	

No.	議事	項目	発言の要旨
28	プラン進捗状況	移住	<ul style="list-style-type: none"> ・外から人を確保するのに家屋の確保の補助がない。空き家があるのに住むところがない。 ・空き家を確保しても、現在持っている建物はすべて風呂が使えない。トイレがくみ取りの家もある(浄化槽)。個人の家なら補助金があるが、法人が使う場合は補助がゼロ。 ・空き家バンクが創設されているが実態は全く有効活用できていない。家屋の利活用がうまくいけば、積極的に人を呼んで来られると思う。住む場所が確保できなければ人は集まらないのでぜひ検討していただきたい。
29	全体意見	プラン 雇用 教育	<ul style="list-style-type: none"> ・プランのKPIは利用者数など、量を測っている指標が多い。R6年まではこのままでよいが、芸術文化やスポーツなどは量だけではなく質の議論も必要だったのかもしれない。 ・県内の企業も採用に当たり、県内高校の状況を把握しておらず、求人も出せていない企業がいる。県内の人材を県内に止め切れていないのではないか？
30		社会経済再活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・社会経済再活性化について現在の空気を変える必要があるのではないか？大分だけで頑張っても、外から人が来なければ活性化にはつながらない。指定感染症から外すためにはどんなことが必要で、どんな行動をとる必要があるのかを考えていくべき。 ・東京では、一人、二人の飲食店は協力金でもうけている。大型店も時短要請を無視することでもうけている。 ・会議所としては雇用を確保していくことが必要。コロナ前の経営課題は人材不足だったが、コロナ以降は収益悪化になっている。これを再び戻していくことが必要。最低賃金の賃上げは理解できるが、今の経営環境で実施できるか、不安である。